

# 九州から東北で前シーズンより多く、非常に多い地点も

2022年10月6日  
一般財団法人 日本気象協会 発表〈第1報〉



## 例年比

九州や中国、四国では例年並みかやや多く、近畿、北陸ではやや多くなるでしょう。関東甲信は、東京では多く、その他の県は非常に多くなる見込みです。東北は非常に多く、北海道は例年よりやや少ないでしょう。東海は静岡のみ多い見込みですが、他3県ではやや少ないでしょう。

## 前シーズン比

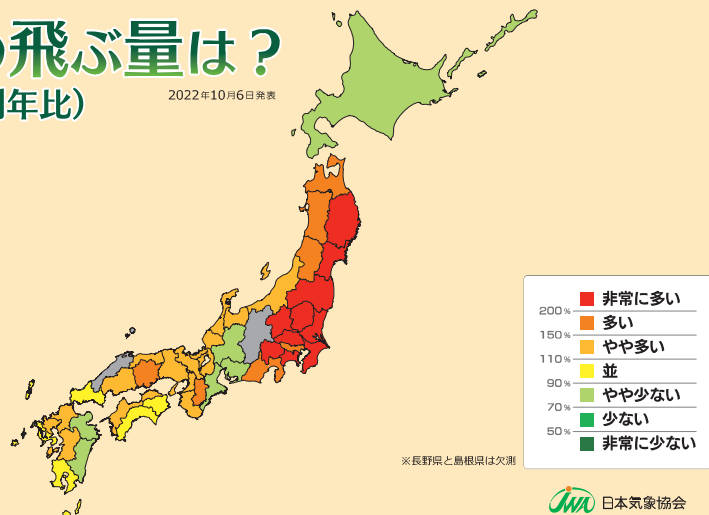
九州から東北にかけて前シーズンより飛散量は多く、特に四国、近畿、関東甲信では非常に多く飛ぶ見込みです。前シーズンは症状が弱かった方も万全な花粉症対策が必要になりそうです。

### ※飛散量の予測根拠:

花粉の飛散量は前年夏の気象条件が大きく影響します。気温が高く、日照時間が多く、雨の少ない夏は花芽が多く形成され、翌春の飛散量が多くなるといわれています。

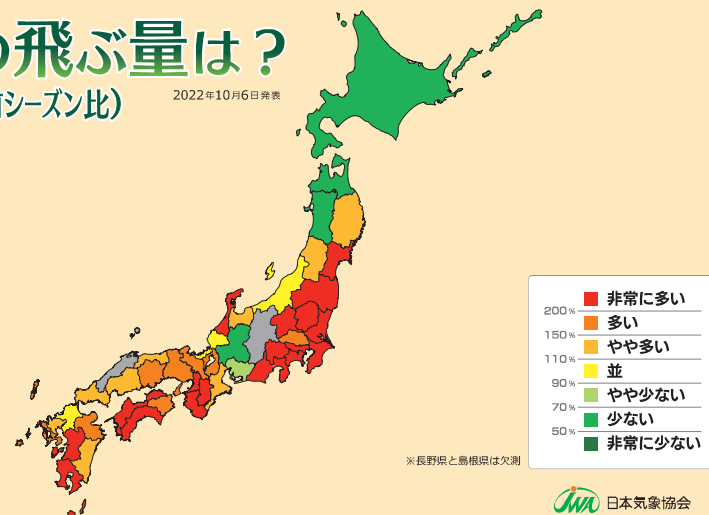
## 花粉の飛ぶ量は？ 2023年(例年比)

2022年10月6日発表



## 花粉の飛ぶ量は？ 2023年(前シーズン比)

2022年10月6日発表



〈花粉の種類〉北海道=シラカバ、その他の地域=スギ・ヒノキ

資料提供:一般財団法人 日本気象協会

### 【飛散量に関する言葉の説明】

前シーズン: 2022年シーズン飛散量

例年: 過去10年(2013年~2022年)の平均値

非常に多い: 例年(前シーズン)の200%以上

多い: 例年(前シーズン)の150%以上200%未満

やや多い: 例年(前シーズン)の110%以上150%未満

例年並(前シーズン並)

: 例年(前シーズン)の90%以上110%未満

やや少ない: 例年(前シーズン)の70%以上90%未満

少ない

: 例年(前シーズン)の50%以上70%未満

非常に少ない: 例年(前シーズン)の50%未満

## 花粉症対策のポイント

**外出時** 花粉の付着をできるだけ防げる服装を心がけましょう。

- メガネ、マスク、つばの広い帽子を身につける
- 毛足の長い衣服は避け、表面がツルツルとした素材の服を着用する
- 上着や長ズボンなどで肌の露出を少なくする



### 帰宅時

- 帰宅後は衣服や髪の毛から花粉を必ず払い落とし、室内に持ち込まないようにする
- 手洗い・うがいを毎回行い、洗顔で顔に付着した花粉を落とす

### 室内で

- 外に干した洗濯物や布団は、外で花粉を払い落とすしてから室内に入れる
- 濡れ雑巾やモップなどで床の拭き掃除をする
- 花粉の飛散量が多い日は、必要以上に窓を開けない